

みょうこういちざ
妙講一座

そうさんげもん
《惣懺悔文》

む し いらい ほうぼうざいしょうしょうめつ こんじん ぶっしん いたる
無始已来、謗法罪障消滅、今身より、仏身に至ま

たもちたてまつ ほんもん ほんぞん ほんもん かいだん ほんもんじぎょう はつぽん
で持奉る、本門の本尊、本門の戒壇、本門事行、八品

しょけん じょうぎょうしょでん ほんにんげしゅ
所顕、上行所伝、本因下種の、

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經

かんじょうもん
《勧請文》

によらいめつごごひやくさいしかんじんほんぞんしょうにいわく いまほんじ しゃば
如来滅後々五百歳始觀心本尊抄曰、今本時の娑婆

せかい さんさい はな しこう いで じょうじゅう じょうどなり
世界は、三災を離れ、四劫を出たる常住の淨土也。

ほとけすで か こ めつ みらい しょう しょけもつ
仏既に過去にも滅せず、未来にも生ぜず、所化以て

どうたい これすなわ こしん さんぜんぐそくさんじゅせけん しゃくもん
同体。是即ち己心の三千具足三種世間なり。迹門

じゅうしほん ときたまわ ほけきょう おい
十四品にいまだこれを説給ず。法華經のうちに於て

も、時機未熟じ き みじゆく ゆえの故か、此本門このほんもんの肝心南無妙法蓮華經かんじんなむみょうほうれんげきょうの

五字ご じにおいては、仏ほとけ猶文殊藥王等な おもんじゆやくおうとうに、これを付嘱し給ふぞく たま

わず。いかに況いわんや其已下その いげをや。但地涌千界ただ じ ゆせんがい めを召して、

八品はっほんを説てこれを付嘱し給とい ふぞく たもう。其本尊そのほんぞんの体たらく、

本地ほんちの娑婆しゃばの上に宝塔空うえ ほうとうくう こに居し、塔中たつちゆうの妙法蓮華經みょうほうれんげきょう

の左右さゆうには、釈迦牟尼仏しゃかむにぶつ たほうぶつ、多宝仏しゃくそん きょうじ、釈尊しゃくそんの脇士きょうじは、

上行等じょうぎやうとうの四菩薩しぼさつ もんじゆ、文殊みろくとう、弥勒等しぼさつ けんぞくは、四菩薩しぼさつ けんぞくの眷属けんぞくと

して末座まつざに居し、迹化他方この大小しゃつたほう だいしょうの諸菩薩しよぼさつは、万民ばんみんの

大地だいちに処しよして、雲閣月卿うんかくげつけい みを見るが如ごとし。十方じゆつぽうの諸仏しよぶつ

大地だいちの上に処うえするは、迹仏しやくぶつ、迹土しやくどを表ひょうするが故也ゆえなり。

かくのごときの本尊ほんぞんは、在世四十余年ざいせいしじゅうよねんにこれなし、

八年はちねんの間あいだにも、但八品ただはっほんに限る。本朝かぎ沙門ほんちやうしゃもん、日蓮撰にちれんごせん。

大慈大悲だいじだいひ、大恩報謝だいおんほうしゃ。南無妙法蓮華經なむみょうほうれんげきょう

南無久遠本時なむくおんほんじの嫡弟ちやくてい、二千余回にせんよかいの当初そのかみ、虚空会上こくうえじやうに

おいて塔中直授たつちゆうじきじゆの相承そうじやうを蒙り、末法濁世まつぽうじよくせに出現しゆつげんし、

ほんみ うぜん しゅじょう ふ せ げしゅやく だいどうし わが こうそ にちれん
本未 有善 衆生 普施 下種益 の 大導師、吾 高祖 日蓮

だいぼさつ けんちょう ごねん みずのとうし し がつ にじゅうはちにち あした
大菩薩。建長五年 癸丑の四月二十八日の朝より、

こうあん ごねん みずのえうま じゅうがつ じゅうさ にち ゆうべ
弘安五年 壬午の十月十三日の夕にいたるまで、

が ふ あいしん みょう たんじやくむじょうどう ほんぶつほうおう きんげん
我不愛身命、但惜無上道と、本仏法王の金言にまか

せ、諸宗無得道の逆化を成じ、我等が為に、本門の

かんじん じょうぎょうしよでん ようぼう じゅよ たま
肝心、上行所伝の要法を授与せしめ給わんとて、

だいなん し ど しょうなんかず ごぐづう だいじだいひ
大難四か度、小難数をしらずの御弘通、大慈大悲、

だいおんほうしゃ なむみょうほうれんげきょう
大恩報謝。南無妙法蓮華經

な む とうもん かんじょう れっそ にちろうぼさつ にちぞうぼさつ だいかく
南無当門勸請の列祖、日朗菩薩、日像菩薩、大覚

だいそうじょう ろうげんかしょう につさい にちぞん にちどうしょうにんとう ほうおん
大僧正、朗源和尚、日霽、日存、日道聖人等、報恩

しゃとく なむみょうほうれんげきょう
謝徳。南無妙法蓮華經

な む れんしごしん ほんにんげしゅさいこうしょうどう もんそにちりゅうだいしょうにん
南無蓮師後身、本因下種再興正導、門祖日隆大聖人、

しにんぎょう せ けんのうめつしゅじょうあん ないし ひっきょうじゅういちじょう だいじ
斯人行世間能滅衆生闇、乃至、畢竟住一乘、大慈

だいひ だいおんほうしゃ
大悲、大恩報謝。

そう じゅつかいかんじょうとうい い みげあんざみょうじ しょうじゅう いこう
惣じて十界勸請当位々弥下案座名字の聖衆、威光

ばいぞうほうらくしょうごん かのうどうきょうあいみんのうじゆ
倍増法楽莊嚴、感応道交哀愍納受。

ほんもんはつほんしょけん じょうぎょうしょでん ほんにんげしゆ
本門八品所顕、上行所伝、本因下種の、

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經

えこうもん
《回向文》

ねがわ じゆじくしょう たてまつ ほんぢほんぼう くりき もつ
願くは、受持口唱し奉る本地本法の功力を以て、

ほうかいぐんれいり く とくやくぶつかぼだい もんりゅうじきょうしゃ めんめん いたい
法界群靈離苦得益仏果菩提。門流持經者の面々、異体

どうしん しんぎょうふたい げんとう に せ しんがんまんぞく によふう おくうちゅう
同心、信行不退、現当二世、心願満足。如風於空中、

いっさい む しょうげ こうないきがんびょうしゃ めんめん とうびょうへいゆ びょうそく
一切無障礙。講内祈願病者の面々、当病平癒、病即

しょうめつ いったんしかい かいきみょうほう ご ごひやくさいちゅう こうせんる ふ
消滅。一天四海、皆歸妙法、後五百歳中、広宣流布、

むりょうだんぜつ
無令断絶。

ずいきもん
《隨喜文》

ありがた にんしん え たまたまぶつぼう
ああ有難や、まれに人身を得、適仏法にあえり。

しか しょうがいえじき ごく みょうり あみ
然らば、生涯衣食の獄につながれ、名利の網にか

ろくどう ちまた いで
かりて、いかでか六道の衢を出ん。

によらい だいひ にもれぬれば、 人間のかいもなく、 何を

このみ おも で
此身の思い出とやせん。

あさましや、我身の上をかえりみれば、 行いは牛羊に

ひとしく、 智慧は獼猴に似て三毒強盛なり。

いまこのげしゅ だいほう たてまつ なん ただしん
今此下種の大法に、あい 奉 らずば、何ぞ唯信のみに

ぶっか じょう
て仏果を成ぜん。

ぜんぶつごぶつ ちゅうげん むぶっせ いで じょうぎょう
前仏後仏の中間、無仏世に出たりといえども、上行

しょでん みょうほうる ふ ときなり
所伝の妙法流布の時也。

れんりゅうりょうそ なが ほんげじょうぎょう りゅうるい どくじ
蓮隆両祖の流れをくみ、本化上行の流類、読持

しきょう ぜしんぶつし
此経、是真仏子といわれ。

まことに果報を論ずれば、竜樹、天親、迦葉、阿難に

もすぐれたり。

これまった きょうりきぶつりき ところ
是全く経力仏力の、しからしむる処なり。

ほつがもん
《発願文》

ねがわ しょうじょうせせ ぼさつ どう ぎょう むへん しゅじょう
願くは、生々世々、菩薩の道を行じ、無辺の衆生

を^ど度して、永^{なが}く退^{たい}転^{てん}なからん^{こと}事を、思^{おも}うものなり。

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經

ほんだい
《品題》

みょうほうれんげきょう じよほんだいいち ほうべんほんだいに ひゆほんだいさん
妙法蓮華經、序品第一、方便品第二、譬喩品第三、

しんげほんだいし やくそうゆほんだいご じゆきほんだいろく けじょうゆほんだいしち
信解品第四、藥草喩品第五、授記品第六、化城喩品第七、

ごひやくでし じゆきほんだいはち じゆがくむがくにんきほんだいく ほっしほんだい
五百弟子受記品第八、授学無学人記品第九、法師品第

じゅう けんほうとうほんだいじゅういち だいぼだつたほんだいじゅうに かんじほんだい
十、見宝塔品第十一、提婆達多品第十二、勸持品第

じゅうさん あんらくぎょうほんだいじゅうし じゅうちゆじゆつほんだいじゅうご によらい
十三、安樂行品第十四、從地涌出品第十五、如来

じゅうりょうほんだいじゅうろく ふんべつくどくほんだいじゅうしち ずいきくどくほんだい
寿量品第十六、分別功德品第十七、隨喜功德品第

じゅうはち ほっしくどくほんだいじゅうく じょうふきょうぼさつほんだいにじゅう によらい
十八、法師功德品第十九、常不輕菩薩品第二十、如来

じんりきほんだいにじゅういち ぞくるいほんだいにじゅうに やくおうぼさつほんじほんだい
神力品第二十一、囑累品第二十二、藥王菩薩本事品第

にじゅうさん みょうおんぼさつほんだいにじゅうし かんぜおんぼさつふもんほんだい
二十三、妙音菩薩品第二十四、觀世音菩薩普門品第

にじゅうご だらにほんだいにじゅうろく みょうしょうごんのうほんじほんだいにじゅう
二十五、陀羅尼品第二十六、妙莊嚴王本事品第二十

しち ふげんぼさつかんぼつほんだいにじゅうはち みょうほうれんげきょうかんだいはち
七、普賢菩薩勸発品第二十八、妙法蓮華經卷第八。

にちがちげ
《日月偈》

にちがち こうみょう もろもろ ゆうみょう のぞ ごと このひと
日月の光明のよく 諸の幽冥を除くが如く、斯人
せけん ぎょう しゅじょう やみ めつ むりょう ぼさつ
世間に行じて、よく衆生の闇を滅し、無量の菩薩を
して、畢竟じて一乗に住せしめん。

このゆえ ち このくどく り きき わがめつど
是故に、智あらんもの、此功德の利を聞て、我滅度の
のち おい このきょう じゅじ
後に於て、斯經を受持すべし。

このひとぶつどう お けつじょう うたが ある
是人仏道に於いて、決定して疑い有ことなし。

ひきだいもく
《引題目》

なむみょうほうれんげきょう
南無妙法蓮華經（ゆっくり三回唱える）

くおんげ
《久遠偈》

なむくおんじつじょう しゃかむ にによらい しょうみょうほっけ たほうぶつとう
南無久遠実成。釈迦牟尼如来。証明法華。多宝仏塔。

じゅつぼうふんじん さんぜしよぶつ じょうぎょう むへんぎょう じょうぎょう
十方分身。三世諸仏。上行。無辺行。淨行。

あんりゆうぎょう せんぜかい みじんとう しょだいぼさつ ふげん もんじゅ
安立行。千世界。微塵等。諸大菩薩。普賢。文殊。

やくおう みろく しゅくおうげ じょうしょうじん にまんはちまんはちじゅうまんのく
薬王。弥勒。宿王華。常精進。二萬八萬八十萬億。

じゅっぼう せ かい いっさい ぼ さつ しやりほつ もくれん かしょう あなん せんにひやく
十方世界。一切菩薩。舍利弗。目連。迦葉。阿難。千二百

まんにせん じゅっぼうせ かいしょうもん えんがく ないし さんごくでんどう ほっけ
萬二千。十方世界声聞。緣覺。乃至。三国伝灯。法華

ぐづう だいしせんどく いちじょうようふ まっぼうしょうどう れんしだいじ
弘通。大師先德。一乘要付。末法唱導。蓮師大士。

りゅうししょうにん だいだいそ し えこうくよう みょうほうくしょう こうさんくどく
隆師聖人。代々祖師。回向供養。妙法口唱。講讚功德。

ばいぞうほうらく い こうぞうやく ご じ みょうほう り やくしゅじょう だいぼんでんのう
倍增法樂。威光增益。護持妙法。利益衆生。大梵天王。

しゃくだいかにん じぎだいいじぎい にちがちみょうじょう しょうしょうしゅくとう しだい
釈提桓因。自在大自在。日月明星。諸星宿等。四大

てんのう じゅうらせちにょ てんりゅうはちぶ ちじんすいじん えんじゅうしゅご
天王。十羅刹女。天竜八部。地神水神。圓宗守護。

だいしょうしよじん えこうくよう みょうほうくしょう こうさんくどく ばいぞうほうらく
大小諸神。回向供養。妙法口唱。講讚功德。倍增法樂。

い こうぞうやく ご じ みょうほう り やくしゅじょう てんちょうぢきゅう こくどあんのん
威光增益。護持妙法。利益衆生。天長地久。国土安穩。

しょうだんせしゅ そくさいえんめい ごうじゅけらく しょうししょうりょうとう めんめん
諸檀施主。息災延命。恒受快樂。所志生靈等。面々

かくかく しゅつりしょうじ しょうだいぼだい ないし ほうかいびょうどうりやく
各々。出離生死。証大菩提。乃至。法界平等利益。